

1. 第16回合同部会①の進め方

「ヨシ焼きの継続実施とヨシの新たな利用」について

(1) 前回の協議内容 ※グループワークでの意見等は別添（参考1）のとおり

- ① ヨシ焼き広報用チラシの検討結果を報告（H31年チラシ原稿について）
- ② ヨシ焼き実施に合わせた具体的な取り組み案1～案5について、意見交換

(2) 今回の進め方

- ・具体的な取り組み案について、意見交換を行う。
- ・前回までの意見等を踏まえ、各市町等が実施している既存の事業を活用し、募集やPRの仕方、組み合わせ方など、具体的な案を事務局より提示する。
- ・取組みの方向性としては、部会のテーマが「ヨシ焼きの継続実施」であることから、より多くの方にヨシ焼きの必要性を学んでもらえる内容とする必要がある。
- ・ヨシ焼きを継続実施していく上での大きな課題としては、高齢化などによる火入れ作業における人手不足であることから、その解消につながる方策を検討する。

(3) 事務局案

【事業の進め方】：季節ごとに行われている既存の事業に合わせて、ヨシ焼きの継続実施につながる内容を組み合わせて参加者を募集する。

①ヨシ焼き見学ツアー（3月）

- ・ガイドによる案内等を活用して、ヨシ焼きの目的や効果について説明することにより、ヨシ焼きの必要性を学んでもらう。

※参考3：「渡良瀬遊水地ヨシ焼きモニターツアー」チラシを参照

⇒ 見学ツアーと同時に募集 ※参加者の希望により以下のコースを選択

- ・現場体験により、ヨシの利用とヨシ原保全への関心を高める

【初級編】ヨシズ編みの作業所見学とヨシズ編み体験（定員10名）

当日 8:00 現地集合

8:30 ヨシ焼き見学（ガイドによる案内）

10:30 ヨシズ編みの作業所見学とヨシズ編み体験（従事者による案内）

【中級編】火入れ現場の見学（定員5名）

当日 7:30 現地集合、火入れ従事者との打合せ

8:30 火入れ従事者の後に付いてと一緒に現場に入り、火入れ作業を見学

【上級編】火入れ作業講習と火入れ作業体験（定員5名）

前日 13:00 現地集合、火入れ従事者との打合せ

14:00 ヨシ原に移動し、地元火入れ従事者による講習会

（オプションで宿泊も手配）

当日 7:30 現地集合、火入れ従事者との打合せ

8:30 火入れ従事者の後に付いてと一緒に現場に入り、火入れ作業を体験

⇒ **実施時期等について**

- 来年度以降のヨシ焼きにおいて、試行的に実施をした上で、指導等を行う地元自治会の受入体制が整えば、一定の選定基準を設け、【上級編】参加者の中から継続して火入れに従事できる方を（仮称）「渡良瀬遊水地ヨシ焼き保存会」会員として認定証を交付し、ヨシ焼き継続実施のための人材となってもらう。
- 火入れ作業の講習については、ヨシ採取者等の協力により受け入れる地元自治会に対して（仮称）指導者育成奨励金を支払う等の支援を検討していく。

②春の植物観察会（4月）

- ・子供広場ゾーン、谷中村史跡保全ゾーン周辺の植物の観察会
- ・ヨシ焼き後のヨシの新たな芽吹きで緑一色となったヨシ原と希少植物等の観察によりヨシ焼きの効果を実感してもらう。

⇒ **観察会参加者を対象に希望者を募集**

（午後）ヨシズ編みの作業所見学とヨシズ編み体験（定員 10 名）

③ツバメのねぐら入り観察会（8月）※秋の植物観察会（10月）も同様

- ・背丈の伸びた緑色のヨシ原にねぐら入りするツバメの観察会
- ・野鳥の住処（すみか）にもなるヨシ原の機能を知るとともに、3～4m前後まで伸びたヨシの生育状況を実感してもらう。

⇒ **観察会参加者を対象に希望者を募集**

（観察会の前の時間）ヨシ灯り作り体験、希望により「ヨシ灯り展」に出品
（ツバメの観察会終了後）点灯した「ヨシ灯り展」の見学。（定員 20 名）

④冬の野鳥観察会

- ・秋から冬にかけて、小金色に輝くヨシ原とこの時期に飛来する野鳥の観察会

⇒ **観察会参加者を対象に希望者を募集**

（午後）ヨシ刈り体験→ヨシズ編みの作業所見学→ヨシの皮むき・ヨシズ編み体験
（定員 5 名）

【募集やPRの仕方】

- ・既存の事業の参加者募集に合わせて、事業の募集やPRを行う
- ・上記の事業を協議会で開催するシールラリーの対象事業とすることにより、参加を促す。
- ・アクリ HP のイベント情報による PR
（年間を通した体験プログラムとして、募集情報等を掲載する）
- ・利根上 HP の協議会情報掲載欄の活用